資料配付の場所・日時
１．筑波研究学園都市記者会
２．国土交通省記者会
３．国土交通省建設専門紙記者会
日時：令和７年９月 11 日(14:00)

令和７年９月１１日
国立研究開発法人土木研究所

土木研究所講演会を開催します！

持続可能な社会を支える土研の挑戦　～注目の成果を紹介～

土木研究所では、令和 7 年 10 月 17 日に一橋講堂で土木研究所講演会を開催します。

今回の講演会では、持続可能な社会を支える土研の挑戦をテーマに最新の研究成果 4 題、その他、イチオシの研究成果 5 題をご紹介するとともに、立命館大学・建山教授を特別講演者としてお招きしご講演いただきます。

今回は新たに、ポスターセッションや質疑応答の時間を設けることで、参加者の理解をより深めていただける会場一体型の構成を目指しております。

ご興味・ご関心のある方参加をご希望される方はぜひお気軽にお申し込みください。

～　講　演　会　概　要　～

１　日　　時　令和７年１０月１７日（金）１０：００～１６：３５
２　場　　所　　一橋講堂（東京都千代田区一ツ橋２－１－２）
３　参 加 費　無　料
４　開催概要　■プログラムの詳細は、別紙パンフレットのとおり
　　■特別講演
　　立命館大学　教授　建山　和由
【演題】建築改革とイノベーション
　　■土木学会ＣＰＤプログラム認定済
５　開催方法　会場及びオンライン
６　申込方法　下記のウェブページ（「令和７年度土木研究所講演会」で検索）により、事前申込みをお願いします。
https://www.pwri.go.jp/jpn/about/pr/event/2025/1017/index.html
こちらからもアクセスできます。
【プログラムの詳細も掲載しています。】

【問合せ先】
国立研究開発法人土木研究所　企画部研究企画課　課長　澤松（さわまつ）　俊寿（としかず）
主事　山田（やまだ）　陽平（ようへい）
電話　０２９－８７９－６７５１

参加費 無料

令和七年度 土木研究所講演会

持続可能な社会を支える

土研の挑戦

～注目の成果を紹介～

令和7年 10月17日(金)

一橋講堂 10:00～16:35

東京都千代田区一ツ橋 2-1-2

特別講演 13:30－14:00

建設改革とイノベーション

立命館大学 教授 **建山 和由**

講演 \土研のイチオシ！/ 10:10－11:00／11:10－12:25

「道路舗装再生にナノ分析法を適用し、日本の道路を守る」
材料資源研究グループ 上席研究員 **百武 壮**

「大規模観測×先端シミュレーションで読み解く気候変動時代の河川水リスク ～渇水・高水温予測と適応策～」
寒地水圏研究グループ 研究員 **星野 剛**

「川底の変化を前提に、暮らしと水辺環境を守る川づくり ～河道の二極化対策の研究～」
河道保全研究グループ グループ長 **板垣 修**

「「災害のジブンゴト化」に向けた仮想洪水体験システムの取り組み」
水災害研究グループ 上席研究員 **栗林 大輔**

「ネイチャーポジティブ実現に向けた河川環境の定量評価 ～物理環境と生物種をつなぐモデリング技術～」
流域水環境研究グループ 上席研究員 **田中 孝幸**

ポスターセッション 12:25－13:30

材料資源研究グループ	上席研究員	百武 壮
寒地水圏研究グループ	研究員	星野 剛
河道保全研究グループ	グループ長	板垣 修
水災害研究グループ	上席研究員	栗林 大輔
流域水環境研究グループ	上席研究員	田中 孝幸
流域水環境研究グループ	主任研究員	北村 友一
流域水環境研究グループ	特任研究員	村岡 敬子
流域水環境研究グループ	交流研究員	小林 伸幸
流域水環境研究グループ	交流研究員	山本 怜南
戦略的イノベーション研究推進事務局	主任研究員	稲垣 由紀子
技術推進本部	主任研究員	上野 仁士
	主任研究員	平地 一典
	主任研究員	房前 和朋
地質・地盤研究グループ	主任研究員	東 拓生
土砂管理研究グループ	主任研究員	金澤 瑛
土砂管理研究グループ	グループ長	水野 正樹
道路技術研究グループ	上席研究員	渡邉 一弘
橋梁構造研究グループ	主任研究員	森本 敏弘
	研究員	新倉 功也
材料資源研究グループ	上席研究員	古賀 裕久
材料資源研究グループ	主任研究員	宮本 豊尚

講演 「スマートで持続可能な社会資本の管理への貢献」 14:05－14:55／15:05－15:55

「ここまできた！ 最先端技術を活用した生産性向上」
技術推進本部 上席研究員 **橋本 毅**

「コンマミリレベルの路面の動的変位を走行しながら測る！ ～次世代の舗装点検・診断技術への新たな挑戦～」
道路技術研究グループ 上席研究員 **渡邉 一弘**

「寒冷地の舗装を守る ～凍結融解・凍上損傷への対応技術の最前線～」
寒地保全技術研究グループ 上席研究員 **丸山 記美雄**

「構造物の予防保全型メンテナンスの推進 ～早期発見・早期治療のための技術～」
橋梁構造研究グループ グループ長 **石田 雅博**

お申込み

参加ご希望の方は、下記のURLから事前申込みをお願いいたします。
https://www.pwri.go.jp/jpn/about/pr/event/2025/1017/index.html

・本講演会への参加は、原則、事前申込みをされた方のみとさせていただきます。
・Youtube によるライブ配信を実施します。 詳細は、土木研究所ホームページをご確認ください。

※ご提供いただいた個人情報は、適正に管理させていただくとともに、国立研究開発法人土木研究所が主催する講演会等のご案内以外の目的には使用しません。

CPDプログラム：本講習会は、土木学会のCPDプログラムの認定を受けています。
CPDにかかる受講証明書は、1日参加の方にのみ後日送付します。（引換券は当日、受付時に配布します。） 但し、Youtubeのライブ配信視聴によって参加された方におかれましては、受講後のアンケートにおいて、受講して得られた所見（学びや気付き）を、100字以上で記載の上ご提出いただくことが、CPDにかかる受講証明書のための条件になります。

お問い合わせ

令和7年度 土木研究所講演会運営事務局

1 講演会申込・配信関係
株式会社ディーワークス
TEL：03-5835-0388
FAX：03-5835-0296
MAIL：doboku2025@d-wks.net

2 1以外のお問合せ
国立研究開発法人土木研究所
企画部 研究企画課 土木研究所講演会担当
TEL：029-879-6751
FAX：029-879-6752
MAIL：kikaku@pwri.go.jp

主催：国立研究開発法人土木研究所

後援：国土交通省／公益社団法人土木学会／一般社団法人建設コンサルタンツ協会／一般社団法人全国建設業協会／一般社団法人日本建設業連合会／一般財団法人土木研究センター

● **寒地土木研究所講演会** ― 講演会テーマ「活力ある魅力的な地域・生活への貢献」―

開催日時 令和7年11月6日(木) 12:30～17:30（開演13:20～）　会 場 かでる2・7 アスビックホール 札幌市中央区北２条西７丁目

※二次元コードより詳細情報をご確認ください。

講演会概要

プログラムの詳細は、土木研究所ホームページをご確認ください。

特別講演 13:30–14:00

建設改革とイノベーション

立命館大学 教授 **建山 和由**

イノベーションとは、「革新的な技術やアイデアによって今までにない非連続な変革をもたらすこと」と定義される。建設改革をイノベーションと捉えたときの進捗状況と今後の展望について、安全性と品質向上の視点から紹介する。

10:00–10:10 **開会挨拶・概要説明** 理事長 **藤田 光一**

10:10–11:00 **講演** \ 土研のイチオシ！/ [前半]

10:10–10:35

道路舗装再生にナノ分析法を適用し、日本の道路を守る

材料資源研究グループ 上席研究員 **百武 壮**

舗装リサイクルの質向上に向け、再生アスファルトの健全性を少量・短時間で評価できるナノ観測法を開発した。高品質な再生舗装材の開発が加速し、アスファルト舗装の長寿命化や維持管理の効率化、市民生活の安全・快適性向上が期待される。

10:35–11:00

大規模観測 × 先端シミュレーションで読み解く気候変動時代の河川水リスク
～渇水・高水温予測と適応策～

寒地水圏研究グループ 研究員 **星野 剛**

気候変動に伴う渇水や高水温リスクの上昇が危惧されている。本講演では河川流量と水温の将来予測、生物への影響、ダム放流による対策等の気候変動下における渇水・高水温リスクの評価から適応策までの最新の検討状況を紹介する。

11:10–12:25 **講演** \ 土研のイチオシ！/ [後半]

11:10–11:35

川底の変化を前提に、暮らしと水辺環境を守る川づくり
～河道の二極化対策の研究～

河道保全研究グループ グループ長 **板垣 修**

河川では水とともに土砂が流れる。このため、土砂の流れに伴う川底の変化を前提とした川づくりが重要である。このような川づくりは、橋脚の不安定化や魚の生息環境の悪化等の防止に役立つことから具体的な方法の研究を進めている。

11:35–12:00

「災害のジブンゴト化」に向けた仮想洪水体験システムの取り組み

水災害研究グループ 上席研究員 **栗林 大輔**

ICHARMでは、仮想空間で洪水を疑似体験できる「仮想洪水体験システム」の開発や実践活動を行っている。本システムを体験することにより、不確実だが自分自身にふりかかる水災害の危難への気づき（災害のジブンゴト化）を促進し、洪水被害軽減に貢献することを目指す。

12:00–12:25

ネイチャーポジティブ実現に向けた河川環境の定量評価
～物理環境と生物種をつなぐモデリング技術～

流域水環境研究グループ 上席研究員 **田中 孝幸**

ネイチャーポジティブ実現に向けて、河川の物理環境と生息する生物種との関係性をモデル化することで、河川整備による生物多様性への影響を定量的に評価し、わかりやすく可視化する流程分布図について紹介する。

12:25–13:30 **ポスターセッション** [同会場2階]

12:30–13:00

材料資源研究グループ	上席研究員	**百武 壮**
寒地水圏研究グループ	研究員	**星野 剛**
河道保全研究グループ	グループ長	**板垣 修**
水災害研究グループ	上席研究員	**栗林 大輔**
流域水環境研究グループ	上席研究員	**田中 孝幸**
流域水環境研究グループ	主任研究員	**北村 友一**
流域水環境研究グループ	特任研究員	**村岡 敬子**
流域水環境研究グループ	交流研究員	**小林 伸幸**
流域水環境研究グループ	交流研究員	**山本 怜南**

13:00–13:25

戦略的イノベーション研究推進事務局	主任研究員	**稲垣 由紀子**
技術推進本部	主任研究員	**上野 仁士**
	主任研究員	**平地 一典**
	主任研究員	**房前 和朋**
地質・地盤研究グループ	主任研究員	**東 拓生**
土砂管理研究グループ	主任研究員	**金澤 瑛**
土砂管理研究グループ	グループ長	**水野 正樹**
道路技術研究グループ	上席研究員	**渡邉 一弘**
橋梁構造研究グループ	主任研究員	**森本 敏弘**
	研究員	**新倉 功也**
材料資源研究グループ	上席研究員	**古賀 裕久**
材料資源研究グループ	主任研究員	**宮本 豊尚**

14:05–14:55 **講演** 「スマートで持続可能な社会資本の管理への貢献」[前半]

14:05–14:30

ここまできた！ 最先端技術を活用した生産性向上

技術推進本部 上席研究員 **橋本 毅**

インフラの施工・管理分野でのデジタル技術活用について研究を行っている。本プログラム概要と代表的研究として機械土工分野の「自動施工技術」に関する研究内容を紹介する。

14:30–14:55

コンマミリレベルの路面の動的変位を走行しながら測る！
～次世代の舗装点検・診断技術への新たな挑戦～

道路技術研究グループ 上席研究員 **渡邉 一弘**

移動式たわみ測定装置（MWD）は、中型車に各種センサを搭載した調査装置であり、舗装のたわみ量を走行しながら効率的に把握可能である。本講演ではMWDの技術概要、期待される効果、現場実装に向けた取り組みについて紹介する。

15:05–15:55 **講演** 「スマートで持続可能な社会資本の管理への貢献」[後半]

15:05–15:30

寒冷地の舗装を守る
～凍結融解・凍上損傷への対応技術の最前線～

寒地保全技術研究グループ 上席研究員 **丸山 記美雄**

低温、凍上、凍結融解、路面凍結など厳しい環境下に置かれる舗装の維持管理技術のうち、近年課題となっている凍結融解や凍上に起因する舗装損傷に対する研究開発の取り組み状況や成果を紹介する。

15:30–15:55

構造物の予防保全型メンテナンスの推進
～早期発見・早期治療のための技術～

橋梁構造研究グループ グループ長 **石田 雅博**

構造物の予防保全型メンテナンスの実現に向けて、(1) 点検技術の開発、(2) 損診断技術及び支援システムの開発、(3) 効果的な措置技術の開発を目標に研究を進めている。本講演では、特に予防保全に資する措置技術を中心に成果を説明する。

16:05–16:25 **質疑応答**（スマートで持続可能な社会資本の管理への貢献）

16:25–16:35 **閉会挨拶** 寒地土木研究所 所長 **井上 勝伸**

16:50–17:50 **技術交流会**

●会費（2,000円）※当日キャンセルはやむを得ない事情を除き極力ご遠慮ください。

Access

一橋大学一橋講堂

〒101-8439
東京都千代田区一ツ橋 2-1-2
学術総合センター内

■電車でのアクセス

東京メトロ半蔵門線、都営三田線、都営新宿線
神保町駅（A8・A9出口） 徒歩4分
東京メトロ東西線
竹橋駅（1b出口） 徒歩4分